

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 13 日

【評価実施概要】

事業所番号	3891400040		
法人名	株式会社 たかちほ		
事業所名	グループホーム もみの木		
所在地	西予市宇和町上松葉165番地1 (電話) 0894-62-7720		
管理者	笹岡 エリコ		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 2 月 5 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 16 日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 16 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	14.4 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,350 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(3) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 16 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	2 名		要介護 2	6 名	
要介護 3	2 名		要介護 4	6 名	
要介護 5	2 名		要支援 2	名	
年齢	平均 84.5 歳	最低 71 歳	最高	94 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園風景の中、宅地開発が進む地域の一角にホームはある。ホームは木造2階建てで、前庭にはホーム名にもなっているもみの木や草花が植えられている。玄関へは石段とスロープ双方の導入路があり、玄関の出入りは自由で、気軽に入れるような雰囲気がある。利用者の表情は落ち着いており、自由に各自のペースでゆったりと過ごしている様子がうかがえる。また、ホームは地域行事に積極的に参加したり、ホームの行事をオープンにして家族や地域の方に参加してもらうなど、地域との交流を深めている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回評価後に運営体制が変わり、再スタートの年であったため、改善項目についての話し合いを行い、新たな気持ちで確認しながら取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員全員が自己評価に取り組むことで、ホームに求められているサービスの内容や質について改めて考え、話し合うことができています。職員も、文章にしてみることで、できているつもりでいたことがまだまだだったことに気づくことができたとの実感を持っている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームでの様子を感じ取ってもらえるようにという思いから、一緒に食事をしたり行事にも参加してもらうなど工夫している。地域が開かれたサービスを確保していくためにも、運営推進会議を地域の理解と支援を得る機会と捉えている。メンバーについては、自治会や地域のキーパーソンなどの参加者をさらに増やし、ホームと地域との交流促進に繋げていくことが求められる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の多くは月に1~2回以上の来訪があるため、その時に積極的に声をかけ、暮らしぶりを伝えていく。来訪の少ない家族には、管理者が電話や手紙で近況を報告している。行事やホームの様子については、ホーム便りを送付して知らせている。運営推進会議や家族会に参加してもらい、意見を出してもらっている。外へ連れ出して欲しいという要望に応じて声かけを積極的に行うこともある。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

亥の子、夏・秋祭りなど地域の行事に参加するとともに、ホームの行事に地域の方を招いて交流している。保育園児との交流やボランティアの受け入れも行い、様々な方と交わる機会づくりに積極的に取り組んでいる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームもみの木

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 河野 智

評価完了日 平成 21 年 1 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念 [人生の最終ステージを安心と尊厳のあるものにするため、その人らしく生き生きと暮らせるようになるために私達は力を尽くしたい] 基本方針 [いつも笑顔でふれあいを大切に] これにそったサービスに取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 平成20年から運営体制として再スタートしているが、平成15年開設当時からの運営理念である『人生の最終ステージを、安心と尊厳のあるものにするため、その人らしくいきいきと暮らせるため、私たちは力を尽くしたい』を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎月の会議には理念について話し合い共有化している。ケアプランの作成、生活支援においても基本理念に基づいて考え行動するように努力し、利用者の日々の生活を支えている。また、毎月目標を決め実践している。 <hr/> (外部評価) 毎月話し合いにより月間目標を掲げて、理念の実践に取り組んでいる。2月は「利用者の体調状態を把握する。うがい、手洗いをこまめにする。室内の温度・換気の調節に努める。」を目標としている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を明示している。家族会、面会時、運営推進委員会において、ホームの理念や方針などを理解していただけるよう報告し、お伝えしている。また、もみの木通信にも載せている。年4回送付、玄関の目の付く場所に貼り出している。	※	家族に了解を得た上で近所や地域に回覧等考えていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) お月見会、七夕祭りなどには近隣の方に声をかけ参加してもらい、日常的な付き合いができるように努力している。	※	散歩時など近所の方に挨拶をし、交流を図りホームの様子なども少しづつ伝えていく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域交流である亥の子、五っ鹿や夏・秋祭りには一緒に楽しみ、また、事業所の行事にも参加してもらっており、交流機会は増えている。 (外部評価) 亥の子、夏・秋祭りなど地域の行事に参加するとともに、ホームの行事に地域の方を招いて交流している。保育園児との交流やボランティアの受け入れも行い、様々な方と交わる機会づくりに積極的に取り組んでいる。	※	保育園児が来訪し、ふれあいの場を定期的に作っている。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議でアピールしたり発言している。		まずはホームのこと、認知症のことを知ってもらい取り組みが必要。運営推進会議への参加をいろんな方に声をかけていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で自己評価することで、できていない所できていることがはっきりわかり意義があると思っている。改善点は職員で話し合いサービスの質の向上に努めている。 (外部評価) 職員全員が自己評価に取り組むことで、ホームに求められているサービスの内容や質について改めて考え、話し合うことができています。文章にしてみることで、できているつもりでいたことがまだまだだったことに気づくことができた職員は実感している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) ホームの行事や利用者の様子の報告や、意見交換を行っ ている。家族や外部からの意見を聴くことで中から見え ないことや、どんなことで困っているかなど参考になっ ている。ホームで抱えている問題点について、参加者にも 考えていただいている。	※	利用者と一緒に昼食を食べていただく機会を作りどんな 生活をしているか見てもらっている。 参加者から出た意見やアドバイスを、サービス向上のた めに活かしている。
			(外部評価) ホームでの様子を感じ取ってもらえるように、一緒に食 事をしたり行事にも参加してもらうなど工夫している が、地域の情報を取り込んだり、地域に開かれたサー ビスを確保するまでにはなっていない。	※	運営推進会議を地域の理解と支援を得る機会と捉え、メ ンバーについても自治会や地域のキーパーソンなどの参 加者を増やし、ホームと地域との交流促進をすすめるこ とが求められる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 市担当者に行事に参加してもらいホームの実情や取り組 み状況を伝えている。	※	市と十分に連携が取れるよう努力していく。
			(外部評価) 市担当窓口に相談したり、行事等への参加の声かけは 行っているが、まだ十分な連携が取れているとは言えな い。	※	地域密着型サービスについては行政とホームが考え方や 実態を共有していくことが大切であることを確認し合 い、十分に協議しながら共に解決を図っていくことがで きるような関係を築いていくことが望ましい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用される利用者もおられないので協力体制取れていな い。	※	研修に参加したり、事例などを挙げてもっと分かり易く 学習できるように資料を揃える必要がある。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が虐待の意味を理解し、虐待のないケアをでき るように努めている。声かけや言葉遣い、声のトーンな どに気をつけたケアを行っている。	※	研修や内部の勉強会をし、虐待について考える機会をつ くる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にホームの方針や理念、契約の内容について、十分に説明を行っている。また、不明な点や質問等にも、お互いが納得できるよう努力している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見、不満などをできるだけ取り入れ運営に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に気軽に意見や要望を出してもらえよう話題を提供し、暮らしぶりを伝えている。又、電話、手紙などで近況報告したり、もみの木通信を送付している。 (外部評価) 家族の多くは月に1～2回以上来訪されるので、その時に積極的に声をかけ暮らしぶりを伝えている。来訪の少ない家族には、管理者が電話や手紙で近況を報告している。行事やホームの様子についてはホーム便りを送付して知らせている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書にも明示しているが家族会、面会時にも伝え意見を聞いている。玄関に意見箱を設置している。 (外部評価) 相談窓口を明示し、意見箱を設置している。運営推進会議や家族会に参加してもらい、意見を出してもらっている。花見、七夕、そうめん流し、芋炊き、クリスマス会などの行事には家族にも呼びかけて参加を促し、なごやかな雰囲気の中で話を聞くようにしている。外へ連れ出して欲しいという要望に応じて、外出できるよう声をかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議や申し送りなどを通して職員が気軽に意見を出せるよう配慮している。また、出た意見や提案に対し、早期実現に向けて努力している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 生活の流れを支援する為にローテーションは組んでいないが新人職員の夜勤にはベテランと組んだり、不安な場合は二人で組むことがある。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの職員による支援を受けられるようにしている。利用者が不安なく生活できるようしっかりとコミュニケーションを取り早く馴れてもらえるようにしている。 (外部評価) できるだけ異動はしないように配慮し、常に利用者と同じ目線で接することを心がけている。やむを得ず異動や離職がある場合は、職員間の引継ぎを十分に行い、利用者にはお茶の時間などを利用して紹介するなど、コミュニケーションに工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勤務の許す限り研修に参加することになっている。研修後は報告書を作成し、職員会議で発表し職員全員が周知できるようにしている。 (外部評価) 研修に参加した職員は報告書を作成し、会議などで報告して共有できるようにしているが、研修の機会が少なく、職員を育てる取り組みが十分とは言えない。	※	段階に応じた研修に参加が必要。個別に必要な知識を身につけて確認していく。 職員の力量や経験などに応じた研修の機会を計画的に確保し、ケアの質を向上させていくことが求められる。ホーム内での研修についても、内容を検討しながら職員一人ひとりの質の確保・向上に繋げていく取り組みが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会などに参加し交流を図っている。	※	同業者との交流の機会が少ないので、交流の機会を増やすよう努める。
			(外部評価) グループホーム連絡協議会の研修会等には参加しているが、周辺の同業者とのネットワークづくりにまでは至っていない。	※	周辺のグループホームでネットワークをつくり、リーダーの勉強会だけでなく、職員が参加し、日々のサービス向上や育成につながる実質的な取り組みとなることが望ましい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員相互の話し合い、チーム会議で希望や意見を出し合っている。親睦会などの開催もおこなっているが職員のストレス軽減は十分にはできていない。	※	職員のストレス軽減のための対策が必要。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 理念、基本方針に基づいて向上心を持ち、職員個々の長所を生かして働けるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 居宅のケアマネジャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、利用者本人から希望・要望や困っていること、不安な点に思っていることなどに話を伺っている。	※	初期の段階から相談など、聴く機会ができるようにしたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 居宅のケアマネジャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、家族から希望・要望や困っていること、不安な点に思っていることなどに話を伺っている。	※	初期の段階から相談など、聴く機会ができるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、施設の相談員が窓口になっているが直接ホームに電話がある時はよく話を聞き、相談に乗っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々にホームでの生活に慣れていただき利用者本人が安心して生活できるように支援している。入所してからもご家族の協力が得られる声をかけている。 (外部評価) 入居希望時から見学してもらったり、デイサービスに参加してもらったりしながら、ホームの雰囲気に徐々に馴染んでもらっている。また、自宅を訪問して暮らしぶりを把握している。在宅のケアマネージャーとの連携を密にし、丁寧に事前調査を行い、馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりできる事を把握しており、一緒に喜び、感謝している。又、利用者から学ぶことが多く、共に支えあいながら一日を生活ができている。 (外部評価) 共に生活する中で、ならわしを教してもらったり、一緒に俳句を楽しんだり、互いに人として受け入れ、話しをするだけで気持ちが安らぎ和むことができる関係を築いている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) お花見、お月見、餅つきなど参加できる場面や機会を多くし、相談できる関係を築いていることにより共に支えあえることができている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時は一緒に食事を勧めたり、遠方から来られた時は、宿泊もしている。本人、家族としっかりと相談し、良い関係を築いていけるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 気軽に面会できるよう配慮している。面会がない方には、家族などに、電話、手紙などで状態を報告し関係が保てるようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) うまが合う方同志はいい関係作りができています。世話好きな利用者は布団をかけたたり、靴を履かせたり、体調が悪い方を労わったり心配されたりする。孤立しがちな利用者には職員が間に入り関わりを持っている。	※	行事や誕生会など利用者同士が顔をあわせたり集える場面作りをしている。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去先に落ち着くまで訪問し、、お互いの情報交換、家族とも話し合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人や家族から希望を聞いたたり、会話やしぐさ、表情などからその人の思いや希望を把握するように努めている。 (外部評価) 利用者や家族と会話を重ね、聞き取るのみでなくちょっとしたしぐさや表情からも思いや意向を感じ取り、記録を積み重ねて把握していくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査表や、本人、家族からこれまでの暮らしや生活環境を聞いて把握している。	※	家族等と常に話し合いを取っていききたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、一日の暮らしぶりを介護記録に書いており、把握できている。また、その日の健康状態・活動の様子をみて、出来ること出来ないことを把握し、適切に支援出来るよう努力している。	※	一日一日の体調に合わせて生活状況が個人のベストな状態で行われるようにして行ききたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に話し合っているが遠方で来られない方には手紙や電話で連絡を取って意見を聞き、反映している。利用者さんには、カンファレンスに参加してもらったり希望を聞いたりしている。(全員はまだ聞いていない) (外部評価) 職員は、介護計画に対応した介護記録の記載を心がけ、1か月ごとに介護経過をまとめ、それを基にカンファレンスを行っている。職員全員の気づき、本人や家族の要望を出し合って介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的に見直しているが状態が少しでも変われば随時、スタッフで話し合った上で見直している。家族、本人の意向、希望も聞き取り入れている。 (外部評価) 基本的には3か月を見直し期間としているが、毎月評価を行い、介護支援経過票をまとめているため、常に現状に即した見直しが意識的に行われている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日勤帯は黒字、夜勤帯は赤字、変化がある場合は青字に色分けして記録している。個別の様子を明確に記録し情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 事業所間で連携を取り利用者の家族の状況、状態に合わせて、その人に合ったサービスが受けれるように努めている。 (外部評価) 協力医療機関やかかりつけ医を受診する際に家族が行けない場合は、ホームで支援している。必要に応じて入院時等の支援もしている。自宅へ着替えを取りに出かけるなど、利用者の要望に応えられるよう柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員さんに出席していただき、情報交換などを行っている。	※	もっと地域資源との協力が必要である。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入所するとホーム内でのサービスが主になってり。以前は通所リハビリや訪問リハビリを利用する利用者もいた。	※	他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、利用者がより良いサービスが受けれるようにする。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 直接利用者に関わり協働できていない。	※	必要に応じて協働できるように取り組んで行く。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者本人及び家族の希望を大切に、納得されて適切な医療が受けれるよう支援している。家族による病院受診時も、ホームでの様子が分るよう情報提供している。 (外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としているが、本人や家族の希望により入居以前からのかかりつけ医を受診している方もいる。利用者の状態に変化があれば、かかりつけ医と連絡を取りながら対応している。受診記録を詳しく記載している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の専門医ではないが、先生、看護師さんも理解してもらっている。又、近くの協力歯科も馴染みの関係となっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職と相談しながら健康管理に気をつけている。また、病院受診時は必ず職員が立会い、正確に症状をお伝えし、適切な治療のための支援が出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期退院のための支援を行っている。	※	入院時の記録が残せていないので記録を残していくようにする。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 早い段階に家族と話し合いをし、系列の病院、老健施設、家族が希望する所に転居・転院するので重度化、終末期がない状態である。看取りの方針は作成していないが、ホームとしての方針は決まっている。 (外部評価) 看取りの指針は作成していないが、重度化や終末期に向けたホームとしての方針は決まっており、本人や家族には入居時に説明を行っている。状態の変化に応じてかかりつけ医と相談し、早い段階で家族と話し合い、法人内施設や病院、他機関等への転居・転院に対応している。	※	入居時に本人や家族に説明を行うだけでなく、重度化や終末期の対応方針を書面化し、確認しておくことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 早めに家族と相談し、重度化しない内に、利用者の状態、体調にあった施設・病院に移っている。今後の変化があった時は、どのような終末期を迎えたいのか、家族と話し検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えの際、家族や関係者との話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを最小限度に留める努力をしている。また、入所に際しては、家族の協力を求めるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりにあった言葉かけを行っている。また、排泄や更衣、入浴などの際のプライバシーの配慮や、声かけのタイミングなどについても、自尊心を尊重した配慮を行っている。 (外部評価) 更衣、入浴時の対応や排泄に関する声かけなど、利用者の尊厳に関わる事柄に関しては十分気をつけている。個人情報にかかわる書類や記録の取り扱いには配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 外出の有無、散歩、買い物等の内容、献立、誕生日の食事など希望をしっかりと取り入れている。意思表示が困難な利用者は表情などから読み取り尊重するよに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに沿った生活を優先し、その日の体調や希望に合わせて支援している。他の利用者に迷惑を掛けない範囲の自由を尊重している。 (外部評価) 他の利用者に迷惑をかけない限りは、自由に過ごしてもらっている。起床、入浴、食事など声かけはするが、基本的には好きな時に好きなことをできるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と利用者さんと相談しながら髪型を決め職員がカット、髪染めしている。現在美容院へ行く方はありません。服装については、季節にあった本人が望む服装ができるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 彩りを考え、見て楽しむものになっている。食べる前には、献立の説明をし雰囲気作りも工夫している。食事の下ごしらえ、配膳、片付けなどできることを手伝ってもらって一緒に準備や調理をしている。しかし、声かけしても拒否される場合もあり出来ない時もある。 (外部評価) 下ごしらえや配膳、洗い物、片付けなど、できることをしてもらっている。職員も、同じ食事をおしゃべりを楽しみながら一緒に食べている。介助が必要な利用者には横に座ってさりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物など、お茶の時間には何種類もの中から選んでもらうようにしている。本人が飲みたい時は自由に飲めるように努めている。買い物代行についても、本人の希望に沿った形で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者全員の排泄パターンを表でチェックしていてそれぞれのパターンに合わせてトイレ誘導している。オムツ使用や失禁の軽減に職員で話し合いそれに向けて努力している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴したい日、時間等、利用者に聞きできる限り希望に添うようにしている。毎日入りたい方は毎日入浴している。入浴を度々拒否される利用者に対しては声かけの工夫している。 (外部評価) その日の気分や体調を確認しながら、好きな時間に入ってもらっている。入浴拒否があるなどの場合には声かけ等に工夫し、楽しんで入浴できるよう配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけ身体を動かすように支援し、リズムある生活で安眠できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) おかずの盛り付け、テーブル拭き、お茶を入れる、配膳、食器洗いなど利用者がそれぞれに楽しみながら役割を果たすことの支援ができています。 (外部評価) それぞれができる役割を自分の仕事とっており、張り切っている。男性も大根おろしやお茶入れなどの役割がある。新聞を読む、広告を見て安いものを探す、買い物に行くなど、楽しみごとや気晴らしとなることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と話し合って、管理できる利用者は自身で金銭管理している。他の利用者は、5,000円程度預かり、面会時にノートをチェックしてもらっている。	※	買い物に出かけた時、利用者が支払う楽しみの援助も行っている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 利用者の体調に合わせて買い物、散歩、ドライブなど希望に添って外出支援できている。天気の良い日は前庭に出て、外気浴、気分転換をし、日常的に外出が出来る支援を行っている。 (外部評価) ベンチなどもある広い前庭、隣接した病院までの誘導路など、ホーム周辺だけでも十分外気浴が楽しめる環境にある。歩いて行ける場所に商店やコンビニエンスストアもあり、車いすや手押し車の利用者もよく出かけている。商店の方とは顔見知りの関係ができている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 普段行けない所に出かける機会を作っているが少ない。(初詣、季節の花、紅葉、海など見に行ったりしている。) 家族と一緒に外出時には、着替えや薬などの準備を行い、協力している。	※	職員、家族間で相談し機会を増やす。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者に頼まれたら手紙の投函の支援をしている。電話を掛ける時は、ダイヤルの介助や静かな場所で座って、落ちついて電話を掛けれるようにしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時に一緒に食事を勧めたり、遠方から来られたときは宿泊も勧めている。居室では利用者さんと横になったりされリラックスしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束のないケアの大切さを理解し実施している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵を掛けず、自動ドアで自由に開くようになっている。夏は自動ドアも切って全開にしている。外出の察知、外出傾向時は職員の連携をうまくとるようにして、外出は付き添っている。職員は利用者がどこにいるか把握しており見守りができている。 (外部評価) 玄関及び各ユニットの出入り口には鍵はかけておらず、いつでも自由に出入りできる。職員は利用者の行動パターンを把握し、見守りで安全を確保することに努めている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間の連携をうまく取り、常に利用者がどこにいるのか把握し、プライバシーに気をつけ安全に生活ができるようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 基本的には職員がいるところで利用者に使ってもらうようにしている。本人の認知状態に合わせて、見守り、確認している。注意の必要な物品については、安全な場所に保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、全員が内容を周知している。再発防止の為、事故報告書にまとめ、会議や申し送り時報告し、職員で話し合い事故防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に行っていないが、急変時のマニュアルは作っている。消防署の方に来ていただき救命処置、人口呼吸、AEDの講習を受けているが今年は出来ていない。	※	年に何回か、消防署に来てもらったり、講習に参加し、応急手当、初期対応に備えたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防火設備や定期点検しており、非難訓練も実施している。近所の方の協力を得られるよう普段から働きかけている。	※	定期的に災害訓練を行い避難できる方法を身につけたい。
			(外部評価) 消防署の協力を得て、防火設備の定期点検や避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行いたいと考えている。	※	時間帯や様々な災害状況を想定し、職員と利用者が一緒に繰り返し訓練を実施することが望ましい。また、職員だけでは限界があることを認識したうえで、地域を巻き込んだ協力体制を築いていくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりに起こり得るリスクについて、きちんと説明しており、リスクが起きた時はどうするかを家族等と話し合いをして、理解と協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝のバイタルチェックを通して、いつもと違う体調の変化や異変に早く気づき、早期発見・早期治療に結び付けている。また、異変時は青字で記録し、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は個別にケースに保管し、日勤のリーダーがその都度薬を出し、利用者に手渡し、介助している。利用者全員の薬の処方箋はファイルに全部閉じている。職員が利用者それぞれの服用している薬の作用、副作用について理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にて、便秘の有無を確認するようにしている。毎朝の牛乳やバナナを食べてもらっている。適度な運動や入浴時の腹部マッサージをして自然排便に心がけている。それでも排便がない場合は、服薬にて対応している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) できるだけ利用者自身にしてもらい細かい部分など出来ていない所は介助し、口腔内を清潔に保っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 系列の管理栄養士にメニューの確認をしてもらいバランスの取れた献立にしている。又、食後に摂取量を確認し記録している。利用者の状態、体調に合わせて食事を提供している。 (外部評価) 協力医療機関の管理栄養士に依頼し、栄養バランスやカロリーの管理を適切に行っている。水分摂取についても状態に応じた適量を確保できるよう支援している。	※	食事、外出、入浴時など、事あるごとに水分補給に気をつけている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染マニュアルを作成しており、職員も感染予防に対する認識が深く、全職員で予防に向けて取り組みができています。 外出から帰宅した利用者にはうがいや手洗いを徹底している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日その日の食材を業者に持って来てもらっている。調理用具、調理器具は毎回ハイターできれいにし清潔に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに花を植えており、威圧感や違和感を感じさせないようにしている。石段とスロープの両方があり、利用者、高齢な訪問者にも優しい作りになっている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 木造建てであり、床も木材を使用しており居室、居間も畳を使っているのも木の温もりに包まれ落ち着いた雰囲気である。日中は見ないテレビは消すようにしている。 (外部評価) 台所、浴室、トイレなどは清潔に保たれている。食堂兼居間には畳のスペースが広くとられており、コタツを置いて、利用者が寝転んでテレビを見たり、洗濯物をたたんだりでき、居心地よい場所となっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間はゆったりとしたスペースでフローには10人掛けのテーブルが設置しており、ゆっくりくつろげる。又、畳のスペースにはこたつもあり、横になったり座ったり、居場所を確保できている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の居室には仏壇や馴染みの写真、家具などが持ち込まれ安心して過ごせるようになっている。 (外部評価) 自宅と同じように畳を敷いたり、ベットを置いている。車いすの利用者はフロアシートを敷いて安全確保などに対応している。それぞれに馴染みの整理筆筒や写真、仏壇などを持ち込み、その人らしい居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 利用者の声に合わせて冷暖房を使用し、室温を適切に保っている。個室にもエアコンがあり個別にも対応できる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 玄関には段差がないが身体機能の低下に合わせて椅子を置いている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室に名前を書いており、混乱しないようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 冬場は活動は少ないが、暖かい日は利用者と一緒に草引きや花の苗植えや庭掃除をしている。庭やベランダに出られ日向ぼっこする利用者もいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	利用者ひとり一人が生き生きと生活できている。また、会話や日常の中で聞き取り、引き出すように取り組んでいる。利用者の想いや願いを知っていく為にも利用者の表情や動きを見逃さないようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食後、おやつ時、ゆっくり話をしたり、歌を唄ったりして、ゆっくり過ごされている。また、居室や外出時など個別にゆっくりと時間を持つことができるようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者は自由に生活しており、居室にすることが少なく居間や食堂でゆとりと過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	持てる力を毎日発揮してもらえるようにしている。台所の仕事、洗濯物たたみなど役割をもっていただき、生き生きと生活できるよう支援している。日々の生活の何気ないことで利用者や職員が、笑ったりする姿がある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ドライブや散歩、買い物、地域の催し物、お祭り等行きたいと言われる所へできるだけ出掛けるようにしている。また、行きたいところが引き出せるように支援していきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の心身の変化、異常発生時など協力病院の先生や看護師に相談している。少しでもいつもと違うと思ったら関わりを多くし、様子を見ている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者にとって何が一番大切なのか考え職員間で相談・対応している。利用者のペースに合わせて安全に生活できるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に会話を多くし、気軽に意見、要望を出してもらえるように話題を提供し、信頼関係を作っている。管理者とはこまに話す場面があるが、他の職員は挨拶程度で終わってしまうところもある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の近所の方や友達などたまに来られ楽しく話しをされている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	少しずつであるが増えてきていると思う。色々な方の意見、要望が聞け参考になっている。グループホームのことや認知症についても理解が深まっている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔で仕事が出来ている。利用者に支えてもらいながら、利用者にとってよりよい生活ができるように努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の関わりによるが、笑顔で生き生きと生活されているのではないかと 思う。利用者に関心を持ち意識して関わっていききたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からも利用者の表情が明るい等、感謝の言葉をいただいている。なんでも言ってもらえる関係ではないところもあるが、利用者を共に支えていただけるよう関わっていききたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームもみの木

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 笹岡 エリコ

評価完了日 平成 21 年 1 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 基本理念と基本方針・毎月の目標を決めサービスをしている。 (外部評価) 平成20年から運営体制として再スタートしているが、平成15年開設当時から運営理念である『人生の最終ステージを、安心と尊厳のあるものにするため、その人らしくいきいきと暮らせるため、私たちは力を尽くしたい』を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 目のどどく所に掲示しており朝礼等で復唱している。 (外部評価) 毎月話し合いにより月間目標を掲げて、理念の実践に取り組んでいる。2月は「利用者の体調状態を把握する。うがい、手洗いをこまめにする。室内の温度・換気の調節に努める。」を目標としている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) ホームだよりの「もみの木通信」にも掲載し家族や地域住民に理解して頂く様に取り組んでいる。	※	家族に理解を得た上で近所や地域に回覧等を考えている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日頃から近所の方々には気軽にあいさつしたり、行事事はお知らせし、できるだけ参加して頂くようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域行事の亥の子や秋祭りには一緒に楽しみ、保育園の園児たちにも訪問して頂き少しずつ交流をひろげている。 (外部評価) 亥の子、夏・秋祭りなど地域の行事に参加するとともに、ホームの行事に地域の方を招いて交流している。保育園児との交流やボランティアの受け入れも行い、様々な方と交わる機会づくりに積極的に取り組んでいる。	※	保育園にお願いしふれあいの場を作っていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議でアピールしたりしている。	※	運営推進会議への参加を色々な方に声かけていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で話し合いをして、出来てない時は改善していく。 (外部評価) 職員全員が自己評価に取り組むことで、ホームに求められているサービスの内容や質について改めて考え、話し合うことができています。文章にしてみることで、できているつもりでいたことがまだまだだったことに気づくことができた職員は実感している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進委員や市役所職員から情報を提供していただき、その情報を活かせるよう方法を考えサービス向上に活かしている。	※	利用者と一緒に昼食を食べて頂きホームでどのような生活を送っているのか見ていただき、意見やアドバイスをもらい向上に努めたい。
			(外部評価) ホームでの様子を感じ取ってもらえるように、一緒に食事をしたり行事にも参加してもらうなど工夫しているが、地域の情報を取り込んだり、地域に開かれたサービスを確保するまでにはなっていない。	※	運営推進会議を地域の理解と支援を得る機会と捉え、メンバーについても自治会や地域のキーパーソンなどの参加者を増やし、ホームと地域との交流促進をすすめることが求められる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 問題やアドバイス等をして頂き質の向上に取り組んでいる。	※	市と十分に連携が取れる様努力する。
			(外部評価) 市担当窓口に相談したり、行事等への参加の声かけは行っているが、まだ十分な連携が取れているとは言えない。	※	地域密着型サービスについては行政とホームが考え方や実態を共有していくことが大切であることを確認し合い、十分に協議しながら共に解決を図っていくことができるような関係を築いていくことが望ましい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今の所あまり必要とする方がいない。でも、学ぶ機会を持ちみんなで学習していきたい。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員同士が話し合い虐待はない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にて十分に説明し理解して頂いている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の不満や苦情を傾聴し、できるだけ取り組んで運営に反映させていきたい。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会に来られた時に報告をしている。 (外部評価) 家族の多くは月に1～2回以上来訪されるので、その時に積極的に声をかけ暮らしぶりを伝えている。来訪の少ない家族には、管理者が電話や手紙で近況を報告している。行事やホームの様子についてはホーム便りを送付して知らせている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情箱を用意している。不満があればみんなと話し合い改善する様に心がけている。 (外部評価) 相談窓口を明示し、意見箱を設置している。運営推進会議や家族会に参加してもらい、意見を出してもらっている。花見、七夕、そうめん流し、芋炊き、クリスマス会などの行事には家族にも呼びかけて参加を促し、なごやかな雰囲気の中で話を聞くようにしている。外へ連れ出して欲しいという要望に応じて、外出できるよう声をかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一回職員会議を開き意見交換している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務調整出来ている。必要な時間帯に職員確保する時は話し合っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動は必要最小限にしている。新しい職員が入ると早く利用者に馴れるように会話を多くするよう指導している。 (外部評価) できるだけ異動はしないように配慮し、常に利用者と同じ目線で接することを心がけている。やむを得ず異動や離職がある場合は、職員間の引継ぎを十分に行い、利用者にはお茶の時間などを利用して紹介するなど、コミュニケーションに工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 計画はたててないが研修を受ける機会は少しずつ増やしている。 (外部評価) 研修に参加した職員は報告書を作成し、会議などで報告して共有できるようにしているが、研修の機会が少なく、職員を育てる取り組みが十分とは言えない。	※	職員の力量や経験などに応じた研修の機会を計画的に確保し、ケアの質を向上させていくことが求められる。ホーム内での研修についても、内容を検討しながら職員一人ひとりの質の確保・向上に繋げていく取り組みが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 少しずつ他の施設を訪問したりして自分達に足りないところを吸収していきたい。 (外部評価) グループホーム連絡協議会の研修会等には参加しているが、周辺の同業者とのネットワークづくりにまでは至っていない。	※	周辺のグループホームでネットワークをつくり、リーダーの勉強会だけでなく、職員が参加し、日々のサービス向上や育成につながる実質的な取り組みとなることが望ましい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の意見は全て聞きできる範囲でストレス解消してあげている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況・実績を把握し、賞与等に反映している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談や本人が困っていることはよく聴き、できることは全てするよう指導しており受止めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会に来られた時に家族等とよく話し不安な事や求められている事等を聴く機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族には話をもちかけるが家族からは現状維持でいいといわれる返答が多く返る。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族から利用者の性格を聞き食堂の席に配慮し、全員が馴染む様な話を提供する。 (外部評価) 入居希望時から見学してもらったり、デイサービスに参加してもらいながら、ホームの雰囲気に徐々に馴染んでもらっている。また、自宅を訪問して暮らしぶりを把握している。在宅のケアマネジャーとの連携を密にし、丁寧に事前調査を行い、馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事の準備や片付けをできる方はして頂き、助かっている事、感謝している事、言葉にして伝え生きがいもってもらっている。 (外部評価) 共に生活する中で、ならわしを教えてもらったり、一緒に俳句を楽しんだり、互いに人として受け入れ、話しをするだけで気持ちが安らぎ和むことができる関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会にて家族に生活状況を話し、親身になって考えている事、こんな楽しい出来事があった事、悲しい出来事があった事等生活の中での変化を伝え、時間の共有はめったにないものの話の再現の中で共通の気持ちを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) グループホームに来やすい様なきっかけを作っている。 (例・月1回のサイン等・病院・美容院)		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人・知人の面会は歓迎し、家族にも報告している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者が食事時等にいない時、別の利用者の部屋まで行き声かけて誘われている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去先が落ちつくまで情報交換し家族と話し合いしたり、関係を継続している。。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや希望はできるだけ添うよう心がけている。自分から訴えない方には表情とかを見て声をかける。 (外部評価) 利用者や家族と会話を重ね、聞き取るのみでなくちょっとしたしぐさや表情からも思いや意向を感じ取り、記録を積み重ねて把握していくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や家族から聞き取りをし把握している。困った時にはその都度情報収集に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 介護記録や申し送りで情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 三ヶ月ごとのカンファレンスを行い検討し介護計画をたてる。 (外部評価) 職員は、介護計画に対応した介護記録の記載を心がけ、1か月ごとに介護経過をまとめ、それを基にカンファレンスを行っている。職員全員の気づき、本人や家族の要望を出し合って介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 必要に応じて職員同士での話し合いや家族と相談して見直している。 (外部評価) 基本的には3か月を見直し期間としているが、毎月評価を行い、介護支援経過票をまとめているため、常に現状に即した見直しが意識的に行われている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 必要な情報をスタッフ間で共有できるよう申し送りノートを作り記入して活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者の家族の状況、状態に合わせてその人にあったサービスを提供できるように努めている。 (外部評価) 協力医療機関やかかりつけ医を受診する際に家族が行けない場合は、ホームで支援している。必要に応じて入院時等の支援もしている。自宅へ着替えを取りに出かけるなど、利用者の要望に応えられるよう柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 保育園の子どもたちに訪問してもらい楽しんで頂いた。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 活用していない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人の希望家族の意向を聞きながら受診している。 (外部評価) ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としているが、本人や家族の希望により入居以前からのかかりつけ医を受診している方もいる。利用者の状態に変化があれば、かかりつけ医と連絡を取りながら対応している。受診記録を詳しく記載している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力病院と相談しながら、家族と話し合っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力病院の看護職員と相談しながら健康管理に気をつけている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力病院と常に連携している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期は今の所経験していないが系列の老健施設・病院があり重度化した場合は家族と相談し意向に添って対応している。 (外部評価) 看取りの指針は作成していないが、重度化や終末期に向けたホームとしての方針は決まっており、本人や家族には入居時に説明を行っている。状態の変化に応じてかかりつけ医と相談し、早い段階で家族と話し合い、法人内施設や病院、他機関等への転居・転院に対応している。	※	入居時に本人や家族に説明を行うだけでなく、重度化や終末期の対応方針を书面化し、確認しておくことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 系列の老健施設・病院があり重度化した場合は家族と相談し希望する所へ入所している。 変化事は家族と十分に話し合う。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 担当ケアマネージャーを中心にこれからのケアについて討議する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 自尊心を傷つけないような声かけをしている。個人情報 は守られている。 (外部評価) 更衣、入浴時の対応や排泄に関する声かけなど、利用者の尊厳に関わる事柄に関しては十分気をつけている。個人情報にかかわる書類や記録の取り扱いには配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 外出の有無、散歩、買い物、食事の献立、誕生日の献立等希望を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の体調や気分に合わせて支援している。 (外部評価) 他の利用者に迷惑をかけない限りは、自由に過ごしてもらっている。起床、入浴、食事など声かけはするが、基本的には好きな時に好きなことをできるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容には、本人・家族の希望により行く。家族の希望により職員が散髪している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各自の好みに合わせた食事提供。利用者に合わせて一緒に片付ける。 (外部評価) 下ごしらえや配膳、洗い物、片付けなど、できることをしてもらっている。職員も、同じ食事をおしゃべりを楽しみながら一緒に食べている。介助が必要な利用者には横に座ってさりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつ等は利用者の好みに合わせている。飲み物等は種類かものから選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 定期的にトイレの声かけ誘導している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 各自の希望とタイミングを計り入浴の支援をしている。 (外部評価) その日の気分や体調を確認しながら、好きな時間に入ってもらっている。入浴拒否があるなど場合には声かけ等に工夫し、楽しんで入浴できるよう配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 部屋の環境に気をつけ、利用者の習慣等にも留意して声掛け、見守り対応している。(湯たんぼ等)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個人個人の役割がありお願いしている。(散歩やゴミ捨て等) (外部評価) それぞれができる役割を自分の仕事とっており、張り切っている。男性も大根おろしやお茶入れなどの役割がある。新聞を読む、広告を見て安いものを探す、買い物に行くなど、楽しみごとや気晴らしとなることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との話し合いで金銭管理できる利用者は自身で管理して頂き他の利用者は5,000円程度預かり面会時に家族に領収書・ノートをチェックしてもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物・散歩・ドライブ等利用者の希望にそって支援している。 (外部評価) ベンチなどもある広い前庭、隣接した病院までの誘導路など、ホーム周辺だけでも十分外気浴が楽しめる環境にある。歩いて行ける場所に商店やコンビニエンスストアもあり、車いすや手押し車の利用者もよく出かけている。商店の方とは顔見知りの関係ができています。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 季節ごとに普段行けない所に外出している。機会は少ない。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族・知人には職員がダイヤルしてあげ、本人と変わって電話してもらっている。手紙等は書ける人がいない。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも気軽に訪問して頂き訪問時には一緒に食事やお茶をのんだりしてリラックスして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 徘徊には見守りしながら付き添い、話に耳を傾けるといった対応を心がけている。職員での理解は出来ていると思う。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ玄関は施錠しているが、日中は居室や玄関に鍵をかけていない。 (外部評価) 玄関及び各ユニットの出入り口には鍵はかけておらず、いつでも自由に出入りできる。職員は利用者の行動パターンを把握し、見守りで安全を確保することに努めている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ほとんど食堂に出られており、部屋にいる人は、20～30分おきに確認し、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険な物は預かり、状態に応じて使用して頂く。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、全員に周知している。過去のインシデント報告書を参考にし、再発防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当や初期対応のマニュアルは作っており、随時臨機応変に対応している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防火設備の定期点検は出来ている。地域の人々の協力も得られる様働きかけている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、防火設備の定期点検や避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行いたいと考えている。	※	時間帯や様々な災害状況を想定し、職員と利用者が一緒に繰り返し訓練を実施することが望ましい。また、職員だけでは限界があることを認識したうえで、地域を巻き込んだ協力体制を築いていくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 顔色が悪かったり、物事がおかしかったりした場合職員が気が付く様普段の行動を把握する。申し送りノートなどで情報を共有する。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は一人ひとりのケースに保管し、日勤リーダーがその都度薬を出し、薬剤情報提供書はファイルにとじており、職員全員が副作用用法・用量については把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝バナナを摂取、適度の運動や入浴時に腹部のマッサージ、食物繊維を取り入れた献立により自然便に心がけている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 自分で出来るだけしてもらい出来ないところは介助している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 同一法人内の病院、管理栄養士にメニューの確認をしてもらい、偏りがないように留意し食後に摂取量を確認、記録している。水分補給は適時に行っている。 (外部評価) 協力医療機関の管理栄養士に依頼し、栄養バランスやカロリーの管理を適切に行っている。水分摂取についても状態に応じた適量を確保できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ・トイレ使用後は石鹸で手洗いする。 ・下痢の場合はテキサント使用している。 ・外出後はうがい・手洗い実施		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 生物は十分注意し、賞味期限内で処理している。食後の台所の周囲はきれいに洗い片付けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに花壇等設置し、威圧感や違和感がないようにしている。階段とスロープがあり利用者や面会者に安心して出入りして頂いている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間も明るく採光を取り入れ設計しており、居室においても明るくなるよう注意している。季節を取り入れたカレンダー作りや行事などを催し、楽しく過せるようにしている。 <hr/> (外部評価) 台所、浴室、トイレなどは清潔に保たれている。食堂兼居間には畳のスペースが広くとられており、コタツを置いて、利用者が寝転んでテレビを見たり、洗濯物をたたんだりでき、居心地よい場所となっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 10人掛けのテーブル、コタツをおいた畳の空間、玄関周りにはイス等を置き自由に過せるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は馴染みの物等持ち込むことができ、心地よく過ごされている。 <hr/> (外部評価) 自宅と同じように畳を敷いたり、ベッドを置いている。車いすの利用者はフロアシートを敷いて安全確保などに対応している。それぞれに馴染みの整理筆筒や写真、仏壇などを持ち込み、その人らしい居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝の掃除時は換気し、室内の温度等こまめに注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーの建物になっており、エレベーター・階段と個別に対応できている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 目印や名前等で混乱や失敗を招かないよう心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 暖かい日はベンチで雑談したり、花壇での草引きや花等を植えたりと楽しんでもらっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の訴えを傾聴し、希望に添うよう心がけている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない	スタッフも一緒に食事し、食後は雑談等しながら過している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意向に沿いながらその人なりのペースを守ってはいるが、職員が関わらなければならぬ方もあり、個別に対応している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個別に出来る仕事を提供し、生き生きとした表情が見られている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者に声掛けはするが断られることが多い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	協力病院への受診と、家族の協力により主治医への受診を随時行っている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望に応じて無理強いを行わず希望に応じて支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	信頼関係はできている。家族からの苦情も聞かれない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の友人等がたまに来られ楽しく会話されている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	色々なイベントに参加があり、意見等を参考にしている。認知症の理解も少しずつあるように思う。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の笑顔で癒され生き活きと働こうという意欲が見受けられる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一部には満足されていない方もおられると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族から感謝の言葉を掛けて頂く事が多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)